

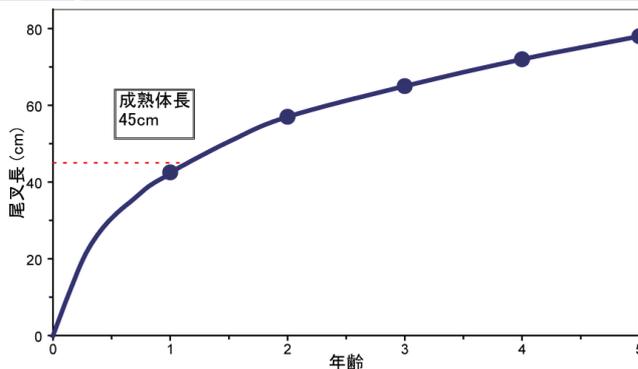
カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)



東部太平洋におけるカツオの成長 (Matsumoto et al. 1984)

最近一年間の動き

2006 年の本資源の総漁獲量は約 32 万トンであり、1975 年以降、過去最大値を記録した。2006 年の本資源の国別漁獲量の対前年比を見ると、2006 年の東部太平洋における国別カツオ漁獲量の対前年比を見ると、エクアドル、ベネズエラおよびパナマの漁獲量は増加した。

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網漁業による。本海域のまき網イルカ付き操業では僅かなカツオしか漁獲されず、カツオはこの海域での主対象魚種とはなっていない。国別ではエクアドルが約半分を占め、メキシコ、アメリカ、バヌアツ、スペイン、パナマ等が 1 万トン以上の漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄による僅かな量のみである。

生物学的特性

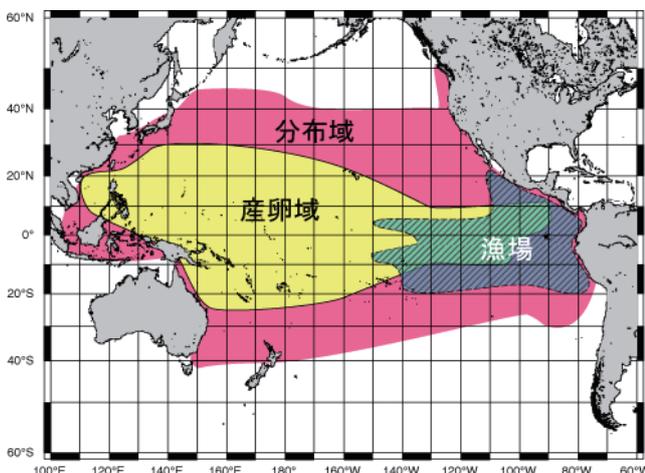
- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

漁業資源の動向

1950 年代までは竿釣り漁業を主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代後半から漁獲量は増加傾向にある。

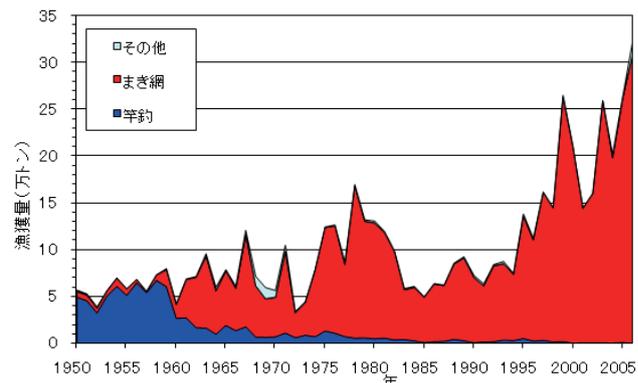
利用・用途

缶詰原料

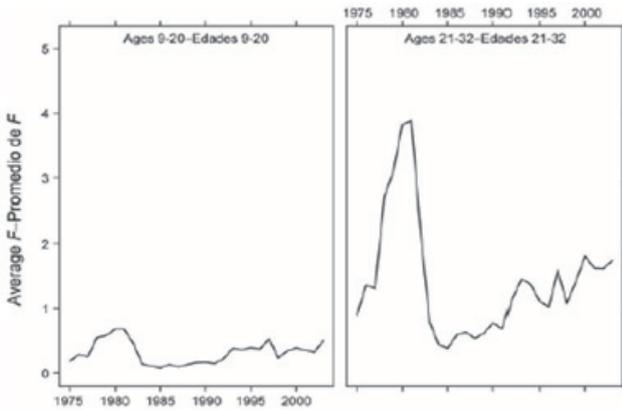


東部太平洋におけるカツオの分布と漁場

(Matsumoto et al. 1984, Schaefer 2001)



東部太平洋における漁法別カツオ漁獲量 (データは Anon. 2007)



A-SCALA で推定した月毎の漁獲死亡係数、9～20 月齢をグループ化しその平均を示したもの（左）と 21～32 月齢の平均（右）(Anon 2007)

管理方策

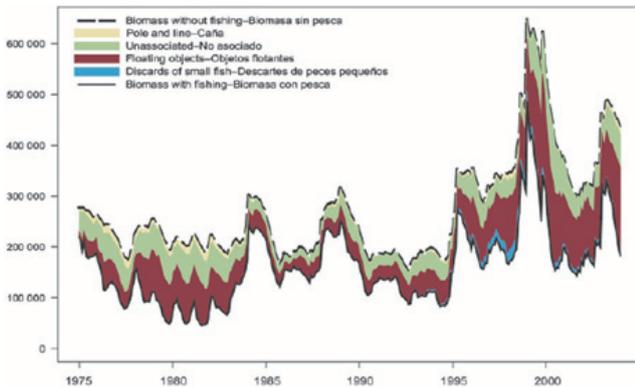
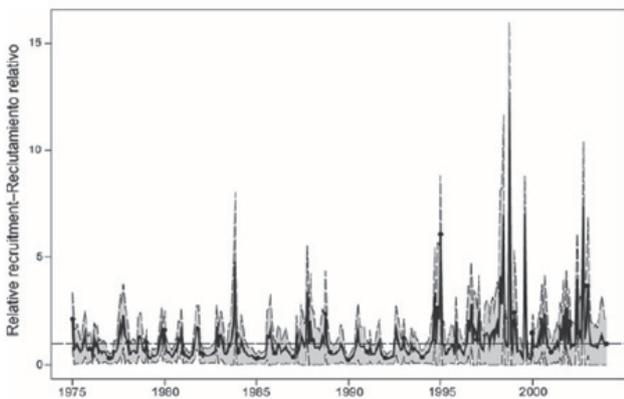
漁業が資源量の減少を引き起こしている証拠は見られず、特段の資源管理方策はとられていない。

資源評価まとめ

- 資源評価は IATTC により実施
- 資源量は、加入量に伴い変化する
- 漁業が資源の減少を引き起こしている証拠は無い

資源管理方策まとめ

- 本資源には IATTC による資源管理方策はとられていない
- 主要漁業のまき網には、キハダ・メバチ資源の保護のため、2007 年は前年に引き続き 1 ヶ月の禁漁期間



A-SCALA で推定したカツオの加入量（平均に対する相対値、上）と資源量（千トン、下）(Anon 2007)

カツオ(東部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	16.1～32.2 万トン 平均：24.2 万トン
我が国の漁獲量 (2001-2005)	28～96 トン 平均：58 トン

資源状態

加入量の変動が大きく、資源量は加入量の変動にともない変化する。2002 年と 2003 の連続した強い加入が、2003 年の資源量と漁獲量を増加させている。再近年の加入量推定値は信頼性が低い値ではあるが、水準が低く、そのため今後の資源量と漁獲量の低下が示唆される。漁獲死亡率は自然死亡率と同等か、もしくは低いと推定されている。本資源の量変動は加入量変動で引き起こされてきたため、将来の資源動向も加入量の水準で決定されると考えられる。